

一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会
医科・歯科連携推進委員会議事録

1.日 時	平成 29 年 7 月 6 日（木）18 時 00 分～20 時 00 分
2.会 場	大阪歯科大学附属病院（天満橋学舎） 西館 7F 共用会議室
3.参加者	栗原正紀、若林秀隆、糸田昌隆、森脇美早、山口康介、岡崎裕香
4.議事録	記録：岡崎裕香
【議題】	
1. 会長挨拶	
全国リハビリテーション医療関連団体協議会の報酬対策委員会より、次回診療報酬改定に向けて、入院時から退院後まで継続的に歯科が関わる、プロセスを含めて評価する仕組み（医科歯科連携に関する要望）を厚生労働省に提出する予定。	
2. 協議事項	
1) 口のリハビリテーション 医科歯科連携インストラクター講習会について	
①長崎開催（8月6日）に関する状況報告および検討内容	
＜報告＞	
・7月6日現在、161名の受付状況となっている。	
・当日の会場は8時30分から借りている。	
・受付に関しては、医科・歯科連携推進委員会のメンバー、日本リハビリテーション病院・施設協会の事務局、長崎口のリハビリテーション研究会で対応予定。	
・当日の資料は7月31日までに事務局へ送付。	
・修了証に関しては日本リハビリテーション病院・施設協会の事務局が準備。	
・書籍販売は予定通り行う。	
＜検討事項＞	
・当日の委員会開催はどうか。	
＜決定事項＞	
・委員会は必要があれば昼休憩で実施する。	
②沖縄開催（9月10日）に関する状況報告および検討事項	
＜報告＞	
・7月6日現在、33名の受付状況となっている。	
・現時点では、沖縄の日本リハビリテーション病院・施設協会の会員病院と歯科医師・歯科衛生士のみの広報となっている。	
＜検討事項＞	
・当日受付や資料、修了証の発行などは沖縄県歯科医師会へお願いしたい。	
・沖縄県医師会へ広報をしてはどうか。また、言語聴覚士への案内も出来ないか。	
＜決定事項＞	
・資料、修了証の発行などに関することは沖縄県歯科医師会へ若林先生から相談予定。	
・沖縄県言語聴覚士会への案内は日本言語聴覚士協会副会長内山氏へ岡崎が依頼。	

2) “口のリハビリテーション”の定義・推進課題・活動指針の明文化について

<意見>

- ・現在ある、“口のリハビリテーション”の定義を基に作成。
- ・地域リハビリテーションの概念のように視野を広げたものにしていく必要がある。

<決定事項>

- ・現在ある、“口のリハビリテーション”の定義および、改定された地域リハビリテーションの定義を基にメールで意見を出し、審議していく（担当：山口先生）。

3) 今後の活動について

- ・群馬県歯科医師会の理事の先生から、群馬での研修会開催ができないか委員長へ相談があった。

<意見>

- ・来年度の活動となるが、医科・歯科連携推進の活動は継続課題であるため対応は可能である。
- ・歯科医師会から基金をとることを積極的にしてもらいたい。

<決定事項>

- ・日本全国を研修会、対象の場とする。
- ・医科歯科連携に関して基金を出す方針とならないかを日本歯科医師会へ発信する。

4) その他

<検討事項>

- ①協会会員病院・施設における歯科衛生士の勤務実態調査報告書 2016 で明らかとなった、歯科標榜はしていないが歯科衛生士が勤務している 47 施設に追加調査を実施してはどうか。
- ②日本顎咬合学会に協会会員病院・施設における歯科衛生士の勤務実態調査報告書 2016 の資料を 60 部配布した。再度、日本顎咬合学会にダイジェスト版で投稿を行う予定。
- ③協会会員病院・施設における歯科衛生士の勤務実態調査報告書 2016 を PDF 化して協会ホームページに掲載してはどうか。

<報告>

- ・高槻市の現状について：高槻市歯科医師会の中に訪問歯科ステーションが開設された。ステーションから、病院や在宅への往診をしていく。

<決定事項>

- ①追加調査を行う。アンケートは岡崎、古川が担当。
- ②協会会員病院・施設における歯科衛生士の勤務実態調査報告書 2016 資料の調査要旨を基に山口先生が作成する。
- ③PDF 化したものを協会ホームページへ掲載できるよう事務局へ報告する。